

---

# 聖霊様～外伝～

鷺見 みずく

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

聖霊様〜外伝〜

### 【コード】

N73850

### 【作者名】

鷺見 みずく

### 【あらすじ】

『何様、俺様、聖霊様』の外伝。本編ではぬかした部分の補強など

## オンリーコングクト

ここ数年のことだが、西の森の獣たちが巨大化し人を襲っている。父上からどうにかせよとの命令を頂いた私は先ず、この国の高祖を助け我らを安寧へと導いた聖霊の棲む聖霊岩に向かった。我ら王族の守り手といえど国民全てを救ったのには変わりない、聖霊岩は王城の一部でありながら神殿の一部でもある。あれは我らの守護者だというのが、神官共は建国時から聖霊岩の管理権を奪い、滅多に近付かせようとしない。今は私の幼馴染が神官として神殿に入ったからそこまで貶すことはしないが、あいつがいなければ私は神殿など潰していたことだろう。

神殿の入口に立っていた僧兵が私を引き止めてきて邪魔だから殴り、横に捨てて廟へ向かう。神官共が後でうるさく騒ぐかも知れんが、どうせすぐに私は出征するのだ、気にすることではない。

芝生の青々とした広場の真ん中に壁のない廟が建っている。四隅の柱が太いため壁がない解放感はあまり感じられないが、影の中にあつて深緑の聖霊岩はまるで私を手招いているようだ。何もかも分っている、任せよと言わんばかりの深い色に打ち震える。ああ、ああ！ 聖霊様は分っていらっしやるのだ、何もかも！

聖霊岩の元へ走り、正面に立って民の現状を伝える。私が知っているのだ、聖霊様ならばとくにご存じだろう。だが私は何かを言わずにはいられなかったのだ。

『私を呼んだのは君だね？』

柔らかいのに腹に響くような声が私の耳に触れた。視線を上げればそこには美しい女性の姿。だがどこか輪郭がはつきりせずぼんやりとし、後ろの聖霊岩が透けている。

「貴方様が……ハッ！！ ご無礼を！」

聖霊様の姿に見惚れるあまり数瞬反応が遅れてしまった。なんとということだ、軍人として情けない。跪き顔を伏せて民草のおかれて

いる状況を繰り返した。何か話していなければつい見上げてしま  
そうだ。だが。

「各地では樹海が広がり、巨大化した獣が人を襲っております……  
聖霊様、どうか我らに力をお貸しく下さい！ このままでは我が国  
は滅びてしまう！」

話しているうちに熱が入り、ついガバリと聖霊様を見上げてしま  
った。聖霊様は悲痛そのものといえる目をし、眉間を寄せ口元  
は歪み、ふるふると肩を震わせておられた。悲しませたくなどない  
のに、ああ、私はなんて罪深いのだ！！

『樹海の拡大も獣の巨大化も私の本意ではない。でも、君に力を貸  
してあげたいのは山々なんだが私には戦いの力はないのだよ』

「そんな……！」

聖霊様のお言葉に目の前が真っ暗になる。そういえば教師が昔、  
聖霊様はその類稀なる癒しの力を高祖に授けたという。高祖は契約  
の証しとして聖霊岩の一部を頂き、世界を平和にするためその癒し  
の力を操ったという。そして今では、その契約の石は王冠の中央を  
飾っている。

『だが私とて出来ることがある。私を覆うこの廟を解体し、私を日  
光の下に晒しなさい。そうすれば私がどうにかしてあげよう』

聖霊様は優しくそう仰った。この廟がなくなれば聖霊様がどうに  
かする、とは……まさか、これは聖霊様の身を守っていたのか！？  
きつとあの巨大化した獣たちの目的は聖霊様で、聖霊様は、ご自  
身がその身を晒すことにより人への被害を少なくしようとお思いに  
なっているのだろう。そんなことは許すことなどできない。

「聖霊様のお気持ちは有難く、その優しい御心に縋りたいのは山  
々。ですがこれは人がせねばならぬこと……聖霊様に頼り切っては  
我々は努力を忘れてしまう」

そう、聖霊様は何も心配などいらないのだ。私がああ憎き獣ども  
を滅殺すれば聖霊様の心労が減り、このような物憂げな表情を浮か  
べることなくなるだろう。我ら王族は聖霊様の加護を受けし一族

なのだ、聖霊様を守らずして何を守るといつのか。

「二百余年の沈黙を破り私の前に姿を現してください。くださったことには感謝の念に絶えませぬ。ですが御身を煩わすことは出来ずまい御前、失礼いたします」

聖霊様は私では力不足であると思われたのだろう。聖霊様のご期待に沿うには日々精進しかない……見ていてください、聖霊様！

私は聖霊様のために野蛮な害獣共を倒しに行きます！

## オンリーコンタクト（後書き）

本編その4に対応。勘違い物と化しているうえ、妹の姿を借りたせいで某王子をオトしている。

ついでに悲痛な表情と言うのは王子の判断であり、聖霊様からすれば「美形どっか行け、シッシー！」であるが自分の理解したいように理解する彼にはそんなこと分るわけがない。

そしてやっぱり、人の話を聞かずに思い込みで暴走。迷惑な奴だ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7385o/>

---

聖霊様～外伝～

2010年11月6日04時54分発行